



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言

歯学部長 宮崎 隆

今年は異常気象の夏でしたが、9月に入りキャンパスに学生が戻ってきました。

夏の恒例の全歯体(第49回)は、岡山大学歯学部の主管で夏期部門24種目が全国の会場で開催されました。本学は卓球と弓道を部門主管しました。本学の総合成績は、29大学中8位(昨年は9位)で、これまでで最高の成績でした。本学にない競技種目や部員が少なくて正式に参加できない種目があり、本年度の正式参加は9種目でしたが、そのすべての種目で団体優勝ならびに個人優勝以下入賞したことは特筆に値します。本学はサッカーと卓球で部門優勝、陸上で部門3位ほか、剣道、弓道、水泳、バドミントン、空手道およびバレーボールで得点を挙げ、総得点83.75点でした。学生の健闘を祝福したいと思います。殆どのクラブが6年生まで参加して団体戦にのぞんだようですが、この団結力は将来の医療人としての糧になると思います。

また、香港で開催された第44回APDSA(アジア太平洋歯科学学生会議)の Scientific Research Competition で本学から3名の学生が発表し、受賞は逃したものの、本学のプレゼンスを高めてくれました。ご存知のように、Times 社の大学世界ランキングで、昨年度の歯学部門世界ナンバーワンは香港大学歯学部でした。アジアの多くの大学もランキング入りしており、世界はダイナミックに動いています。香港大学歯学部とは学部間交流を締結しており、先日も香港の学生を選択実習に受け入れています。今後、香港をはじめ、アジアの歯学生とさらに交流を深めていきたいと思っています。

個人的には8月上旬に小川医学部長と一緒に、米国のUCLAを訪問してきました。国際交流センター長として、医学部学生(M6)の選択実習を推進するための交渉でした。UCLA医学部の教授を務めている本学同窓のサーモン典子先生のご尽力で協定書締結準備を進めています。また、M2学生が参加しているサマーセッションの担当教授や事務局スタッフとも面会してきました。世界中から学生が参加するこのプログラムは本学学生にとっても、大変に魅力的な



ものです。これまで歯学部学生は学内カリキュラムの兼ね合いで参加できませんでしたが、何とか工夫をして参加できるようにしたいと考えております。

本学学生が正規のカリキュラムだけでなく、課外活動や選択実習等で、幅広く経験を深めてたくましく成長することを期待しています。

歯学部オープンキャンパスが開催されました

入学支援課 鳥山 ちひろ

平成29年8月12日(土)洗足キャンパス(歯科病院)にて歯学部オープンキャンパスが開催されました。

歯学部オープンキャンパスは1日2回の開催で合計102組204名が参加しました。会場となった第2臨床講堂(2回目は第1臨床講堂)では宮崎歯学部長の開会のご挨拶から始まり、富士吉田教育部堀川教授による「富士吉田での学生生活」、口腔生理学井上教授による「歯学部教育の特色・平成30年度歯学部入学試験・卒業後の進路」についての全体説明会が行われました。その後、6グループに分かれ口腔リハビリテーション科、歯科放射線科の外来施設見学や美容歯科による患者ロボットの説明、さらに総合診療歯科による口腔内治療体験実習(1回目のみ)が実施されました。また、希望者には入試担当教員が個別面談を行い、参加者からは“元々興味があり、さらに本学に入学したいと思いました”“様々な診療科を見学し、今までに見たことのないものをたくさん見ることが出来てとても興味が湧きました”との声が寄せられ、大変好評のうちに終了しました。

引き続き、11月19日(日)に富士吉田校舎オープンキャンパスを開催します。



歯学部入試説明会が開催されました

入試常任委員 高見 正道

9月16日(土)午後1時30分より、平成30年度歯学部入試説明会が旗の台キャンパス4号館5階講義室にて開催されました。今年度の参加者は140名で、昨年の108名を大きく上回ったことから、本学歯学部に対する受験生の関心の高さがうかがえました。



説明会では、最初に山本松男入試常任委員により、歯科界の将来展望と本学歯学部が実践する教育の特徴、そして今年度から新しく導入された地域選抜枠などの入試内容の詳細について解説がなされました。その中で、一昨年度の本学卒業生が歯科医師国家試験に全員合格したことが示されると、参加者から驚きの声が漏れました。その後、予備校の講師による本学の入試問題(英語・数学・理科)の傾向と対策について解説があり、別室では入試常任委員による個別相談会も開かれました。相談に来た受験生や保護者からは、昭和大学歯学部を第一志望にしているが、年々難しくなっているので入学できるか不安との声が多く聞かれました。5時過ぎに説明会は無事終了し、参加者は昭和大学のパンフレットと入試要項を手に大学を後にしました。

マダガスカル口唇口蓋裂医療協力結団式が行われました

歯学部長 宮崎 隆

平成29年度昭和大学マダガスカル口唇口蓋裂医療協力結団式が、去る8月28日(月)午後6時半から、1号館5階会議室で、笹川記念保健協力財団の喜多悦子会長、駐日マダガスカル大使館臨時大使 Rosette Rasoamanarivo 様(代理)ほかのご来賓の参列のもと、厳粛に開催されました。早いもので今年は7回目の派遣になります。

校歌斉唱に引き続き、小口理事長から本事業を通じて本学が世界に貢献できることに感謝するとともに医療の原点に戻って学生も視野を拓けるようにとの、小出学長から7年目を迎え歴史を作るために業績をまとめるようにとの挨拶がありました。笹川記念保健協力財団の喜多会長からは、マダガスカルは日本に比べて医師や看護師が圧倒的に少ないが平均寿命が65歳を超えてプライマリーヘルスケアの時代であり、その中で口蓋裂治療はメディカルケアとして短期間で成果がでているので注目されていると参加者への期待が述べられました。

団長の土佐泰祥先生から挨拶とメンバーの紹介が

ありました。昨年同様の形成外科医師、麻酔科医師、歯科医師、看護師、学生、および事務職員に加えて、今回は山本晋也監督とカメラマンが映像取材班として正式に派遣団に加わり、総勢19名となりました。歯学部関係者は、中納治久准教授、矯正科に留学中の Heri-zo Rakotoharinivo 先生、そして5年生の原隆蔵君の3名です。参加者全員で昭和大学宣言を宣言して式典を終了しました。

会場を1号館地下1階の第2学生ホールに移し、各派遣メンバーの所属長も交えて懇親会を開催しました。参加者が体調管理に気をつけて成果をあげて無事に帰国することを祈念いたします。



チュートリアル・ファシリテータ養成ワークショップに参加しました

地域連携歯科学部門 小澤 真奈美

2017年8月23、24日に富士吉田キャンパスで行われましたチュートリアル・ファシリテータ養成ワークショップに参加致しました。初めてのワークショップでしたが、和やかな雰囲気の中、普段なかなかお会いすることが出来ない、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、放射線技師はじめとする様々な先生方とディスカッションすることができ、大変貴重な経験となりました。

私は昭和大学出身であり、6年間学生の立場でPBLを行って参りましたが、今回ファシリテータの役割を学ぶため、実際に班に分かれPBLを行い、ファシリテータとしてどのようにPBLに関わっていくかを学びました。また、ディスカッションでは、立場の違った様々な職種の先輩である先生方の意見を聞いたことも医療総合大学ならではの経験であり、大変勉強になりました。このような貴重な機会を与えてくださった運営の先生方、富士吉田事務課の方々及び、2日間楽しくワークショップを共に過ごして頂いた班員の皆様に心から感謝しております。ありがとうございました。



(財)海外邦人医療基金(JOMF)の医療チームの一員としてマレーシア医療巡回に参加してきました

大学院4年(小児成育歯科学専攻) 下村 直史

平成29年7月4～11日にかけてJOMFの医療派遣で、マレーシアの3都市に行きまして。JOMFは外務・厚生・労働3省の共管で設立され、海外在留邦人の医療不安解消を目的に事業を行っています。今回は日本人学校や日本人会に所属する幼稚園児～中学生の健診・歯科相談対応・小学生に対する歯科保健講義を行いました。

私がJOMFの事業に参加させて頂いたのは、平成27年度ドイツ巡回に続き2回目です。対象は大きく変わらないのですが、ドイツではセカンドオピニオン等の相談ニーズが、マレーシアでは健診ニーズが強かったです。その差異には、会場となる日本人学校や日本人会の考え方が強く関わっていると感じました。本邦でも所属する市区町村や学校等により、享受する保健活動に多少の差異は生じます。まして学校保健安全法の範疇にない海外の日本人学校において、差異が生まれるのは自然かもしれません。

JOMFは今年度、9か国19都市で医療巡回事業を行っています。対して文部科学省の認定する日本人学校は96都市にあり、学校健診に関しては各校の裁量に任されています。各都市それぞれにニーズがある(もしくは無い)ことが推し量れますが、調査は行われていません。歯科にかかわる研究や調査の裾野はまだまだ広がっていると感じ、視野が拓けました。今回の派遣に際しご尽力下さった皆様に感謝致します。



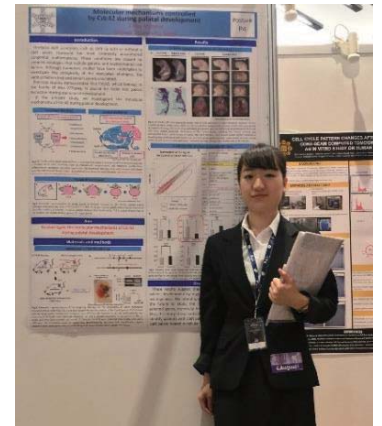
APDSA(アジア太平洋歯科学学生会議)で発表しました

歯学部4年 南 えりか

2017年8月1日～5日に香港で開催されたAPDSA(アジア太平洋歯科学学生会議)に参加し Cdc42 遺伝子コンディショナルノックアウトマウスを用いた口唇口蓋裂に關与する遺伝子の探索についてポスター発表をしました。

海外では同学年で既に治療を行うなど基礎研究よりも臨床研究に力を入れている印象を持ちました。各国の教育システムの違いや症例について具体的な話ができて良い刺激を受けました。帰国してからもSNSで交流が続いており素敵な友人に巡り合えたことに感謝しております。

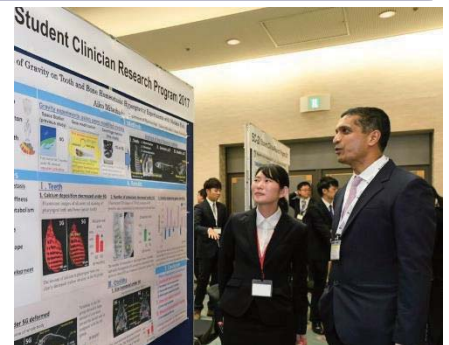
今回ご指導・ご協力いただきました宮崎隆先生、上條竜太郎先生、山田篤先生、口腔生化学講座の皆様、国際交流センターの先生方にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。



日本歯科医師会スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラムに参加しました

歯学部5年 三橋 あい子

平成29年8月18日、日本歯科医師会館にて第23回SCRCP(スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム)が開催されました。全国28の歯学部・歯科大学から各1名の学生が出席し、緊張に包まれる中、英語での研究発表が行われました。



私は“重力が硬組織に与える影響”を研究テーマとして地上の5倍の重力環境下で6か月間、遺伝子改変メダカを飼育する実験を行い、歯、骨および耳石の形成と恒常性維持の制御における重力の重要な働きについての発表を行いました。研究の過程は地道なものでしたが、新しい発見に繋がる可能性を秘めた結果を得る事ができ、科学研究の面白さに触れる事ができたように思います。また、発表後の質疑応答や先生方とのディスカッションでは様々なご指摘やアドバイスを頂き、自分の研究を見つめ直す意味でも貴重な経験が出来ました。

今回参加した事で、研究という分野への視野が大きく広がり、進路を考える際の選択肢の幅も広がりました。大きな糧となる素晴らしい経験ができた事を嬉しく思います。最後になりましたが、親身になって指導をしてくださった歯科薬理学講座の先生方、応援してくれた友人と家族に心から感謝いたします。

全日本歯科学生総合体育大会が開催 されました 歯学部学生部長 上條竜太郎

全日本歯科学生総合体育大会(オールデンタル)は日本の全ての歯学部が参加する歯学生のスポーツの祭典です。大半の競技は夏季に行われますが、ラグビーフットボール、スキー、アメリカンフットボールは冬季開催となり、夏の大会に先駆けて行われます。

現在の夏季開催種目数は23で、規約に従って、競技部門ごとに優勝校から順に得点を与え、夏季・冬季の合計得点の多寡で総合優勝校を決定します。今年度のオールデンタルは通算で第49回となり、岡山大学歯学部の事務主管のもとで開催されました。総合優勝は愛知学院大学歯学部で、総合閉会式で優勝旗・優勝杯(ともに持ち回り)をもって表彰されました。本学歯学部からは15部門に参加し、総合成績第8位と、大きく健闘致しました(昨年度は9位)。特に、サッカー部と卓球部が総合優勝を果たしました。

本学学生がオールデンタルを通じて心身の健全な発達を獲得し、自己責任、克己心やフェアプレーの精神を培うとともに、仲間や指導者との交流を通じて、豊かな心と他人に対する思いやりの心を育むことを期待します。

オールデンタルで優勝しました 歯学部4年 酒井 敦史

歯学部卓球部は8月2日～4日に、東京都府中市の郷土の森総合体育館で行われた第49回オールデンタルで主幹を務め、総合優勝をすることが



ことができました。また女子団体戦では参加校21校中準優勝、男子シングルスでは準優勝、ダブルスでは第3位、女子シングルスでは優勝、ダブルスでは準優勝と、好成績を残すことができました。私たちは数十年ぶりにオールデンタルで主幹を務め、1年前から準備をしてきました。特に7月に入ってから準備に追われ、思うように練習に集中できない時期も続きました。当日も運営と同時並行で試合を行いました。このような環境下で総合優勝をすることができたのは、日ごろからの練習の積み重ねとともに、当日の運営と応援に全員で駆けつけてくれた他学部の卓球部員のみんな、OB、OGの先生方のご指導、ご声援のおかげだと思います。

今回の大会では好成績を収めることができました。これに満足することなく、今回の大会で見つかった反省点や改善点を解消できるように、今後の練習に励んでいきたいと思っております。応援してくださった皆様、手伝ってくれた皆様、本当にありがとうございました。こ

れからもご支援、ご声援のほどよろしくお願い致します。

オールデンタルで優勝しました 歯学部5年 阿部 誉

歯学部サッカー部は、8月2日から6日にかけて香川県丸亀市で開催されました第49回全日本歯科学生総合体育大会サッカー部門に参加し、優勝という成績を残すことができました。初戦を神奈川歯科大学に3-0と好スタートを切ることができ、続く東京歯科大学に2-0、準々決勝は鹿児島大学に1-0、準決勝は明海大学に2-1そして決勝は九州大学に2-0に勝利しました。真夏の中での試合、連戦、そしてギリギリの人数という苦しい条件の中、チーム全体で鼓舞しあい、最後の最後まで集中を切らさず走り抜いたこと、またOB、OGの先生方から頂いたご指導や応援のおかげでこのような素晴らしい結果を出すことができたと思っております。また6年生は今大会で引退ということで今のチームの良い雰囲気があるのも6年生のおかげですし個人的にも一番お世話になり、勝って引退という結果で送り出すことができ大変嬉しく思っております。

来年は優勝校というプレッシャーに押しつぶされることなく、新しいメンバーを含めた新チームで二連覇という結果を残せるよう努めて参りますので、変わらぬご支援、ご声援よろしくお願い致します。この度は本当に有難うございました。



行事予定 広報委員長 中村 雅典

- ・10月2日:大学院秋季入学式
- ・10月6日・7日・8日:旗が岡祭
- ・10月8日・9日:いぶき祭
- ・10月21日:父兄会秋季部会
- ・10月24日:歯科医師臨床研修マッチング結果発表

編集後記 歯周病学講座 滝口 尚

吹き抜ける風や虫の声に秋の訪れを感じるようになりました。秋といえば、「スポーツ」「芸術」と様々な言葉で表現されますが、本号でも学生の学術研究発表やスポーツで活躍する記事が多く寄せられました。ご寄稿下さいました皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。